

「三兎を追え」が目指すもの

2020年10月18日 花まる学習会代表 高濱正伸

1 背景 子育ての指針を見失いがちな時代

- (1) AIやロボットなど、第四次産業革命の真ただ中にある。
- (2) それは exponential (指数関数的・幾何級数的) な変化で、大人も常に学び続けなければならないほどである(リカレント教育)。
- (3) どの一人も、正確に20年後を見通せない。
- (4) コロナ禍で常識が急速に変化している(テレワーク・開粗化・学校・副業・家族の形・LGBT・…)
→昭和や平成の世界観・常識観が通用しない。どう育てる？

2 教育の方向性

- (1) 「知識」より「地頭の良さ」？→両方
- (2) 「科目の成績」「正解」より「生きる力」「幸せかどうか」
- (3) 「総合成績」より「強味(得意技)のとんがり度」 特に「数理思考力」
- (4) 多様性教育 いかにより多くの人と触れ合えるか
- (5) 人間力 魅力・思いやり・共感力・リーダーシップ
- (6) 豊かな経験
- (7) 言葉の力 語彙力・正しく使う・聞いたことに答える・ひきつけ説得する話し方

3 私立中高一貫 VS 高校受験

- (1) 私立中高一貫
 - メリット カラーが明確で豊か(宗教・校風等)、大学現役合格に有利、エスカレーター(付属の大学がある)の良さ、高校受験の無い良さ(部活等に打ち込める、12歳から優秀な人間同士での切磋琢磨がある等)、鍛えるべき時(12歳)に高度な学びを経験できる、同窓意識の高さ(一生の付き合い度高い)
 - デメリット 高い(塾費用・学費)、狭い世界での交流、高校受験の無い弱み(学力が緩む等)、塾主導・親がかりの受験、子離れできない落とし穴、合格での慢心、合格での方向性喪失(燃え尽き)、KPIが結局大学受験結果メインで予備校化
- (2) 公立中高一貫
 - メリット 比較的安い、地元人脈、高校受験の無い良さ、工夫した入試問題多い
 - デメリット 高校受験の無い弱み、私立ほど大学受験の結果になっていない、
- (3) 高校受験 特に公立高校
 - メリット 比較的安い、地元人脈、中学時代に「世の縮図(貧困・学力困難者・等)を経験できる、主体的な大人の受験(本人の意思でやれる)、旧制中学由来の骨太な文化が残っている学校がある(浦

和高校など)

●デメリット 中3が受験勉強メインになる、結果責任が無いために受験結果がぬるい面

※この他にも、通信高校、海外のボーディングスクール、中卒で明確な進路(基打ち・相撲取り・職人等)など、選択肢はあることはある。

※どちらが正解ということはなく、結局は「哲学の違い」

※歴代ノーベル賞受賞者数 公立高校卒25名、私立高校卒2名

※一部上場企業社長数 公立高校出身者の方が多い、ただし圧倒的→拮抗という流れ。慶応人脈に見られる二代目三代目もある。

3 浦和高校について

「三兎を追い」の凄み。メディア報道の影響もあって、本音では結局「受験(東大何人?)」の軸しかない学校が多い中で、熱い行事(運動会・文化祭)も、部活(花園にも行く)も、受験も日本一を目指すことができている、稀有な学校。現役合格を当然目指してはいるが、浪人を怖がっていない。

選ばれし者だけが挑戦できる真のエリート教育。大多数は、能力や時間の制約の中で、どれか一つに絞るしかないもの。卒業生人脈も強力なので、骨太教育の文化が維持できている。

「Most likely to succeed」を超えるもの。

例: J・N君 小学生時代は伸び伸び、ニコニコママ、釣り遠足に父も参加、小6夏の合宿で魚突き、中受を6年生夏に中断、情熱大陸の準主役、ラグビー部で県大会決勝へ、県のベストフィフティーンに選ばれる、3浪するも魅力的な奨学金を獲得した上で国立大学医学部へ
人柄も強靱な肉体も知力も兼ね備えた大人に。

例: 和田重正(はじめ寮・くだけけ会創立者) 支えを必要とする他者のために、志高く生き、後世の範となった骨太人生。ノーブレス・オブリージュの具現。

4 小学生時代の親の心構え

- (1) 「情報で選ぶ」前に「まず、子を観る」。子の心を観る(関心と目の輝き。没頭具合)。発育水準。向き不向き。人との相性等。
- (2) 教育方針(どんな人になってほしいか)や進路の方針(中受受験か高校受験か、スポーツ・音楽等の道か)は、まず両親の価値のすり合わせのための話し合い。正解はない。決意すること。
- (3) 情報収集の注意点 噂・ネット書き込みに翻弄されない。長を見る。通っている子・卒業生の声(1次情報)を聞く。
- (4) バランスよく育てる。「基盤はガッチリ(規範・言葉の力・計算等)」「体力」「回復力」「感性(美・自然・相手の心への)」「没頭できる」「決められる」「好奇心旺盛」「楽しむ」「やり抜く」「創る」「大自然の中の豊富な経験」「多様な人との関わり経験(色んな大人、異学年の友、異性、異文化の友、異言語の友、障がいの人等。「人一人を育てるには、村一つが必要だ)」「得意分野・得意科目」…。
- (5) 自分の安心・充実に焦点を当てる。親である前に一人の大人として、生き活きと生きているか。「親が幸せそう・元気・充実して生きている姿」こそが太陽。スクスク育つもと。
- (6) 毎日5分でよいので、一対一で聞く時間を。